

～みなさん「想い」を聞いてください～



この便りがみなさまのお手元に届くころは、9月の半ば過ぎかなと思います。そのころは、8月の猛暑も和らいで、秋の稲刈りも既に各地域で始まり、早い方は、秋の収穫を終えられた農家もあるのではないかと思います。

暑い日は、もう少し続くと思いますが熱中症に注意され、また、これからの農作業で「くたびれないよう」に、体調管理に気を付けてください。

あっ、忘れてました・・・コロナ対策「新しい生活様式」は、お忘れなきようお願いします。

◆母親はすごいのお～(八島指導員)

私の母親は、今年で86歳、畑仕事が好きで、野菜を作っては、農協を通じて、自慢の野菜を収穫し、八千代にある産直市に出荷しています。昔は、自家消費するだけでしたが、隣のおばちゃんの助言で、産直市に出荷するようになり数年が経ちました。おかげで、以前では食べきれない野菜を廃棄していたものが、お金に変わり、自分の通帳に貯蓄としてたまっていきます。母親はこれが生きがいの一つになりました。私が聞かないのに、一方的によく話してくることがあります。それは、「芳樹、今日も儲けたでえ～」と貯まったことばかりを嬉しそうに話してきます。この話を聞いて、私が返す言葉は、「貯まったことばかり話すけど、経費は、父ちゃんの通帳から引き落とされることは、言わんのじゃけえ、儲けたことしか言わんのじゃけえ。」と言うと、「そうじゃねえ」と笑っています。・・・これがいつもの会話になっています。

「畑仕事命」みたいな母親ですが、毎朝必ずと言っていいほど、私が仕事に出かけるときは、「おはよう」の声をかけてきます。そして、「行ってこい」みたいなしぐさで、手を挙げています。それに応えて、私も車の中から手を挙げるのが日課です。毎日のように、声がけしてくる母親を思うに、もう少しで60歳に手が届く私に、親の気持ちとして心配しているのかなあ・・・その思いの表れかと感じています。この母親の行動を強く思うようになったのは、次の事がきっかけです。

前回この「小さな便り 8月号」において、「被爆を生きて」の本の紹介をさせていただきました。この中に被爆された方自身の看病や治療に対し、親への感謝、家族への感謝の言葉が、目に留まりました。特に、母親が被爆した我が子を必死で看病する、それも長期に渡っての治療を行う姿、そして、「必ず病気を治す」と言う母親の信念を貫いた姿が、そこには書かれていました。この本を読み、「子を思う母親の情の深さ」に触れ、自分の母親の行動を重ね、「母親はすごいなあ」と強く思うようになりました。

振り返ってみると、あまり親（母親）に対して、感謝の言葉を伝えた記憶がありません。「まあ、言わなくてもええか」とか「親子の間で恥ずかしい」みたいなのところがあります。これからは、「母親はすごいのお」と言う思いが、感謝の言葉を発信する原動力となり、素直に「ありがとう」の言葉を贈りたいと思います。

みなさんは、親・家族・身近な人に「感謝」の言葉を伝えていますか？

追伸、父親のみなさん、母親の事ばかり書き申し訳ありません。「父親も同じじゃ」と言うお叱りの声がどこからともなく聞こえてきました。いつか機会があれば、父親のことも書きたいと思います。

突然ですが

◆「はいせつ」のお困りごとはありませんか？（田村相談員）

皆さんが「紙おむつ」「紙パンツ」と呼んでいるものを「アウター」と言います。そして、尿取りパッドのように中に入れるものを「インナー」と呼びます。大人用の紙おむつは、通常、紙おむつの中に尿取りパッド（インナー）を入れて使います。その方が、取り換えがしやすいし、経済的にも安くてすみます。以前、奥様の排泄ケアをされていた男性の方が、そういうことを知らずに、紙おむつ（アウター）だけを使用されていました。ある時、ドラッグストアの店員さんが、この男性が頻繁に紙おむつだけを大量に買っていることに気づき、助言をして下さり、初めてアウターとインナーを組み合わせるのだと知った、こんな話をされていました。

たかが紙おむつのことですが、わかっているようで実はわかっていないこと、結構あるのではないかと思います。

あと、尿取りパッドを使用する際に注意したいことは、重ね使いをしないこと。たくさん重ねればたくさん吸収して良いと思いがちですが、それ、間違いです。2枚重ねたり3枚重ねたりすると、蒸れたり、かえって隙間が出来て漏れたり、身体をそこねたりと弊害が生じたりします。尿取りパッドは、1枚使い。これ、覚えておいてくださいね！